

# 海外研修ファイル

## 海外出張者報告

池園 宏

(いけその ひろし)

人文学部教授

私の専門分野はイギリス文学で、学生時代より始めた19世紀ヴィクトリア朝小説の研究に加えて、現代小説、とりわけイギリス文壇で最も権威あるとされるブッカー賞の受賞作品の研究を行っている。今世紀以降に継続して取り組んでいるのは、2017年にノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの研究である。代表作として『日の名残り』(1989) (ブッカー賞受賞作) や『わたしを離さないで』(2005) (同賞最終候補作) などがあるが、本年9月には長編デビュー作『遠い山なみの光』(1982) の映画化作品が劇場公開される運びとなり、広瀬すず他の豪華俳優陣の出演によって日本でも話題を呼んでいる。

イシグロに関して行っている学外研究者との科研費共同研究の一環として、2025年早々にアメリカのテキサス大学オースティン校にあるハリー・ランサム・センターという施設へ赴いた。ここには多数の著名な文人のアーカイブ資料が所蔵されており、イシグロに関しても、作品の草稿やメモなどの直筆手稿、さらに未公開作品や写真データなど、一言で言えば「宝の山」が現地公開されている。一定



テキサス大学オースティン校 UTタワー

の費用を支払えばPDF形式の資料をメール送付してもらうことも可能だが、デジタル化されていないものも多く、また現物に直接触れることで得られる発見も少なくない。このため、知人の研究者たちも近年渡航を試みており、同様の現地調査に基づく研究成果は国内外を問わず増加傾向にある。

イシグロのアーカイブ資料は膨大で、ネット公開されている内容カタログは索引を含めて90ページを超える。数日間の訪問ですべてを閲覧することは不可能なため、必然的に目標やテーマを絞らなければならない。私たちの共同研究の題目は「カズオ・イシグロと音楽：創作の原点を探る」というもので、イシグロが10代後半から20代前半にかけて行っていたシンガーソングライターとしての創作活動と、20代後半以降の小説家としての創作活動との分野横断的接点を探究することを目的としていた。その後このテーマは、イシグロ自筆の歌詞にたびたび登場する故郷の長崎の表象とも結びつき、広義のルーツ研究へと進むことにもなったが、渡航調査の主たる焦点はこれらの領域に当てられた。施設内では持参のスマホでひたすら資料の写真撮影作業を行い、無言の立ち仕事を終日続けることとなった。計3日間という短い滞在で近隣の観光エリアに出向く時間的余裕すらなかったが、今回は再度の訪問だったため、作業に集中できる心理的余裕はあった。ちなみに、オースティンはライブミュージックの聖地と言われ、繁華街には気軽に立ち寄れる音楽スポットが多数ある。また、「最後の一葉」や「賢者の贈り物」など珠玉の短編によって日本でも有名なアメリカ人作家O・ヘンリーが住んでいた家の記念館は一見の価値がある。

テキサス大学訪問時には今回の調査対象の範疇を上回る様々な副産物も入手することができた。収集した資料の分析作業はこれからも課題として残っているが、これらは以降の研究において幅広い活用が見込まれるもので、地道に読み解いていきたいと考えている。



ハリー・ランサム・センター